令和５年１０月定例記者会見要旨
開催日時　令和５年１０月２５日（水）午前１０時３０分　３０２会議室

（総務部長）皆さんこんにちは。日頃より大変ありがとうございます。ただいまより１０月の定例記者会見を開会いたします。よろしくお願いします。

（市長）こんにちは。いつも記者クラブの皆さんにはお世話になっております。１０月から年度後半のスタートとなり、様々なイベントもフルバージョンに近い形になってまいりました。様々なイベントで取材にご対応いただきありがとうございます。

はじめに、保育支援アプリ「コドモン」についてです。保育ＩＣＴシステム整備事業で、保育士の皆さんや保護者の皆さん、保育現場の負担軽減のために取り組む事業の一つであり、すでに１０月３０日のお披露目のインフォメーションがあったかと思います。保育支援アプリ「コドモン」を導入するにあたり、無線ＬＡＮの整備や保育士に１台ずつタブレット端末の配備等を準備しています。事業費は、令和５年度の予算ベースで３，９９２万円です。１０月３０日に豊田・文出・片羽・城北の４園で運用開始となります。豊田保育園で、３０日の朝７時５０分頃から実際に動いているところを視察させていただく予定です。その後、１１月初旬に城南・赤沼保育園で、１１月中旬に残りの７園で運用開始となる予定で、すべての諏訪市内の公立保育園がこの保育ＩＣＴシステムをスタートさせることになります。諏訪市の保育支援のデジタル化については、すでに健康推進課で母子保健に関する妊娠から出産、子育て、母子手帳をフォローアップする形の「すわっ♫ぷり」を導入（Ｒ５．４．３運用開始）しておりますが、今度は保育園でのサポートとなります。

次に、１１月１２日に諏訪市消防団が「第１８回救護訓練」を行います。城南小学校の体育館をお借りし、午前８時から行います。講師は、消防司令補の唐さんです。訓練内容は、講演の後に心肺蘇生や搬送要領、止血、固定の実技訓練を行います。同日の午後、消防団主体のイベント「諏訪市消防フェア」を諏訪ステーションパークで開催します。消防のＰＲ、特に消防団の活動を市民の皆さんに広くＰＲし、団員確保へつなげるという期待を持って、大人から子供まで楽しめるイベントを考えました。チラシをお配りしておりますが、メイン会場では吉本の住みます芸人こてつさんを一日消防署長としてのお笑いライブやラッパ隊演奏、防災/防火クイズなどを用意するとともに、車両の展示として、消防団のポンプ車・多機能車、消防署の救急車やはしご車の乗車体験、スタンプラリー、写真撮影コーナー、キッチンカー・温かい飲み物も用意するとともに、着ぐるみのアルクマにも来てもらうといったイベントを計画しております。ぜひ皆さんにも取材をお願いできたらと思っております。

次に、１１月１１日に諏訪市関係人口創出事業（トライアル逆参勤交代）ということで、すでに先月ご案内させていただいたかと思いますが、丸の内プラチナ大学が講座を持っており、地方との関係人口、特に産業界における人手不足に対してどのような関係人口を増やしたら良いかというテーマの講座がございます。松田先生の講座を受講している学生１１名＋スタッフの約２０名が諏訪市に９日から二泊三日で宿泊をし、市内の製造業や醸造業、農業、観光業等の視察をして、最後に市長に対して提言を行うスケジュールとなっており、ＳＵＷＡガラスの里をお借りして発表会となります。そのプレゼンテーションの前段として、明日私が丸の内プラチナ大学へ出向き、市の抱えている課題やその目標、皆さんに対する問いかけ等を行ってきます。

また、１１日には小学校の創立１５０周年の記念式典がございます。過日四賀小学校が１５０周年の記念式典を行いましたが、１１日には湖南小学校が創立１５０周年記念式典、豊田小学校、中洲小学校が開校１５０周年記念式典の予定となっております。本当に長い歴史の節目

のイベントでありますので、ぜひご覧いただけたらと思います。
　１１月２５日にすわ未来創造「子どもゆめプロジェクト」の最終回を迎えます。５月にキックオフし、小中学生メンバーと高校生のサポーターを加えて、子供たちが自ら研究し、課題に向けて取り組みますが、今回は「ゼロカーボンシティの実現に向けて」というテーマのもと、自分たちが住みたい諏訪市のこれからのまちづくりを目指して、メンバーや高校生サポーター等と学校や年代を超えてともに協働しながら探究活動を進め、市長への提言をすることになっています。その間に、関係団体の皆さんにはＳＤＧｓの取組やフィールドワークなどで具体的な課題の実践化の考え方、方向性などをお示しいただき、活動にご支援いただきました。本当に心から感謝を申し上げます。２５日に最終回（第１１回）を迎え、提言をいただくことになりました。
　教育委員会の関係で、諏訪市美術館の特別展「過去の情景と未来の風景」を１１月１１日から令和６年１月２１日まで開催いたします。諏訪市美術館の過去から現在までの流れを、作家や作品と共に追っていく展覧会です。現在制作を行っている方から出品を募り、美術館の収蔵作品と一緒に展示を行います。月に１回ずつギャラリートークも開催する予定です。ぜひ多くの皆さんに美術館へ足を運んでいただきたいと思っております。

（１１月の日程説明等）
〇諏訪市認知症予防・啓発講演会
　１１月１８日（土）　午後　１時３０分　　総合福祉センター
〇ともに生きる諏訪セミナー
　１１月１９日（日）　午後　１時１５分　　文化センター
〇諏訪市議会 本会議【招集日】
　１１月２８日（火）　午前１０時００分　　議場
〇教育委員会関係１１月行事予定

　最後に、先週の土日に出雲市にて「神話の縁結びかみがたりネットワーク」の令和５年度総会が行われました。出雲は諏訪の建御名方神（たけみなかたのかみ）のお父さん神である大国主大神（おおくにぬしのおおかみ）。そして、糸魚川高志国（こしのくに）を納めておりました女帝の奴奈川姫（ぬなかわひめ）、この間に生まれた子供が建御名方神（たけみなかたのかみ）。この神話の世界のご縁を地方創生に絡めて行おうという呼びかけです。昨年は高島城祭に両市の市長をはじめ、市民の皆様が来て祭りを盛り上げていただき交流を行いました。出雲市ではオブジェの除幕式などの活動をしてまいりました。

記者との質疑応答
〇諏訪圏工業メッセについて
（記者）初めて会場が岡谷で開催されたが、どのように評価するか。
（市長）ずっと継続してご利用いただいておりました諏訪湖イベントひろばが、昨年の事故等を受け、閉鎖いたしました。そのことにより、会場に関して関係者の皆さんにはご心配とご苦労をいただきましたが、岡谷市さんのご厚意により、分散開催ではありましたが多くの皆様にご参加いただき、盛会に開催することができたということで大変ありがたく思っております。ブースの大きさが小さくなったりシャトルバスへの連携等、今までにない工夫をしていただき、できるだけ多くの参加者を募っていただきましたが、ご不便等おかけしてなかったかどうか心配したところです。会場を巡回させていただく中でその質問をさせていただいたところ、各社

工夫をされて柔軟に対応していただいている様子も見受けられ、皆さんのご協力によって成功裏に開催ができたのではないかと感謝しております。
（記者）今後諏訪でまた開催することへの思いは。
（市長）諏訪湖イベントひろばについては、これから土地の調査や建屋の解体を順次進めてまいります。数年は要することと思いますが、その間に多くの皆さんの声も聞きながら順次整備を進めていく予定であります。皆さんからのリクエストをいただく中で、できるだけご要望に応えられるように進めていきたいと考えています。
（記者）岡谷市長選が終わったが、今後の連携についての考えは。
（市長）今までと変わらず、この周辺域の６市町村としっかり連携、協力して取り組んでいくことは私のマニフェストでもございます。この気持ちは早出市長さんに代わられても、変わらず継続していきたいと思っています。

〇諏訪湖イベントひろばの建屋について
（記者）諏訪湖イベントひろばを暫定的に使うことへの考えは。
（市長）昨年まさにメッセの開催中にコンクリートブロックの落下という事故が発生しました。我々施設を提供する側において、危険な建物をお貸しすることは危機管理上できないことをご理解いただきたいと思います。次は新しく生まれ変わる段取りに入っていく方が、長いスパンで将来を見据えたときに、補修をしながら使い続けることに労を注ぐよりも気持ちよく次のフェーズに入っていけるのではないかという判断でご理解いただきたいと思います。
（記者）イベントひろばの規模を３，０００㎡を上限としている理由は。
（市長）今まで利用していた建屋は、東洋バルヴの工場として当時大きな利益を産んでいました。建築から５０～６０年経ち、耐震化もできていない状況で利活用することで使ってまいりましたが、公共が新たに施設を作る時には、皆さんからいただいた税金を活用して公共の利益に資するのが使命でございます。同じように利益を生み出していた１万㎡のものを作る発想は、残念ながら諏訪市にその力はありません。しかし、建屋という大きなその空間ということに限らず、この地域の産業にとって新たなその技術を生み出したり、世界最先端に挑む皆さんが集積をしているというのが価値なので、その企業活動を支援するというものの拠点となるものを、行政の責任として提供するのは基本計画に書かれています。建屋だけで３，０００㎡ということではございません。広大な土地に何かしら建屋が欲しいというリクエストに対応し、我々の今の財政力や将来的な維持管理費等を勘案すると、３，０００㎡を超すものはできないというメッセージであります。柔軟な発想のアイディアを含めて、これから皆さんに提言をいただきながらどんな空間にしていくのかというのが具体化の過程です。しかし、２０年前からは環境基準が変わっており、地質調査をもう１回やらなければなりません。また、解体をするのも大きなお金がかかりますので、順次整備をしながら、将来どのような形で残すのかを見据えた準備が今やるべき仕事ではないかと考えています。そうした準備作業を整えている間に、具体的に建屋を含めた土地のコンテンツについて練って、順次スムーズに計画を進めていきたいと考えているところです。
（記者）建屋自身３，０００㎡を上限とするが、柔軟な使い方でイベントをするということか。
（市長）そのような考え方が適切ではないかと思います。常時屋根の下でやらなければならないというリクエストばかりではありません。いろいろな知恵を出し合いながら、どんな形の建屋が良いのか、屋根が必要なイベントが１年間のうちにどのくらい入ってくるのかを予測を立てながら柔軟に考えていきたいと思っています。
（記者）市長のアイディアは。
（市長）例えば、赤砂崎公園での相撲の諏訪湖場所が開催された時のテントや、国立競技場の

ように真ん中が空間になっているもの。イベントをやっている時だけ雨避けができるといった工夫をしながらできるのではないかという発想です。リクエストに対応してくれるデザインがどんなものがあるか、我々と違う発想もあるかと思います。今までは東バルの建屋があったので、それを有効に活用してきたイメージが唯一無二のスタイルであるかというと、もう少し考え方が柔軟であってもいいのではないかと思います。
（記者）今の建屋を耐震改修して維持した方が良いのではないか。
（市長）建屋をどうするかの課題は、私が市長に就任する前から対話が積み上がってきています。私が就任して基本構想を作り、基本計画を作って進んできている中で、建屋は取り壊す方向であります。そのようなご意見があることは、受け止めておきます。

（総務部長）以上をもちまして、１０月の定例記者会見を閉会します。どうもありがとうございました。